

現在、その多くは静穏が保たれている地域であり、今後とも静穏を保っていくことが望ましいことから、55 dB以下とする。

ただし、AA地域を除くこれら地域のうち道路に面する地域の環境保全水準は、現行の環境基準値を基礎として設定したLdnの値とする。

地域類型に基づく環境保全水準

地 域 の 類 型		昼夜等価騒音レベル Ldn (dB)
AA	療養施設などが集合して設置される地域など特に静穏を要する地域	50 以下
A	主として住居の用に供される地域	55 以下
B	相当数の住居と併せて商業、工業などの用に供される地域	65 以下
C	AA, A, B以外の地域	55 以下

道路に面する地域の環境保全水準

地 域 の 区 分		昼夜等価騒音レベル Ldn (dB)
AまたはC地域のうち2車線を有する道路に面する地域		60 以下
AまたはC地域のうち、2車線を越える車線を有する道路に面する地域		65 以下
B地域のうち2車線以下の車線を有する道路に面する地域		70 以下
B地域のうち2車線を越える車線を有する道路に面する地域		75 以下

特殊騒音としての航空機騒音及び新幹線鉄道騒音については、地域類型ごとに定められている現行の環境基準値をもって環境保全水準とする。

航空機騒音に係る環境保全水準

地 域 の 類 型		基準値 (単位WECPNL)
I	専ら住居の用に供される地域	70 以下
II	I以外の地域で通常の生活を保全する必要がある地域	75 以下

地 域	
I	主として住居の用に供される地域
II	I以外の地域で通常の生活を保全する必要がある地域

## 2. 環境容量の設定

環境騒音に係る環境容量は、騒音の影響を軽減し、住民が騒音影響に苦しまないよう、法に基づく用途区分及び騒音レベルの区分ごとに設定する。

第I類型に区分される地域、農業地域など住居の区分に属するメッシュとする。

第II類型に区分される地域は、騒音レベルが70 dBから75 dBまでのゾーンであるメッシュであり、

第III類型に区分される地域は、騒音レベルが75 dBから80 dBまでのゾーンに混在しているメッシュであり、

ただし、これらの環境容量の値は、それまでの環境容量の値を基礎として、

## 第4節 環境管理

環境騒音に係る環境容量は、騒音の影響を軽減し、住民が騒音影響に苦しまないよう、法に基づく用途区分及び騒音レベルの区分ごとに設定する。